

第4章 移動円滑化に関わる問題点と課題

4-1 既存アンケート調査結果

当基本構想の策定に向けた課題を抽出するために、移動における高齢者、障害のある人の実態や意向について、既存のアンケート調査結果を整理します。

以下は、「第2次日進市障害者基本計画（平成20年3月）」策定時に実施されたアンケート調査の概要です。

(1) アンケート調査（第2次日進市障害者基本計画）の概要

○調査期間：平成20年1月11日（金）～平成20年1月31日（木）

○調査対象：

・障害のある人

平成19年12月21日現在で障害者手帳を持っている市民、及び障害者手帳を持っていないが障害福祉サービスを受けている市民で概ね18歳以上の人全員。

・障害のある子ども

平成19年12月21日現在で障害者手帳を持っている市民、及び障害者手帳を持っていないが障害福祉サービスを受けている市民で、概ね17歳以下の人全員。

・18歳以上の市民（障害のない人）

平成19年12月21日現在で日進市に住んでいる18歳以上の市民（障害のない方）2,000人（無作為抽出）。

・市内で事業を行なっている事業所

日進市内で事業を行なっている事業所。

○調査方法：郵送配布・郵送回収

○アンケートの回収状況

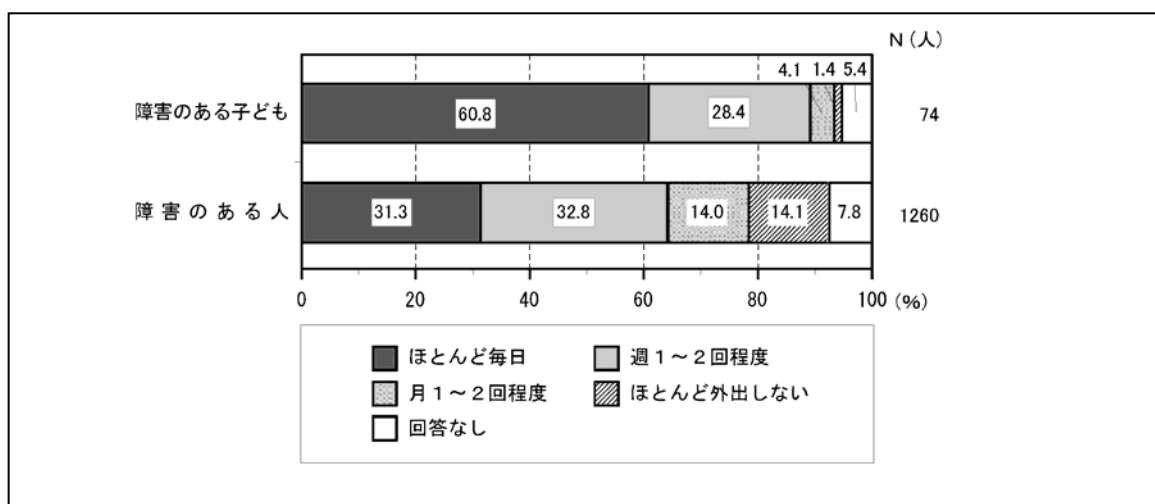
対象者	A：配布数	B：有効回収数	有効回収率 (C=B/A×100)
障害のある人 (概ね18歳以上)	1,934	1,260	65.1%
障害のある子ども (概ね17歳以下)	154	74	48.1%
18歳以上の市民 (障害のない方)	2,000	865	43.3%
市内で事業を 行なっている事業所	247	125	50.6%

(2) アンケート調査の結果

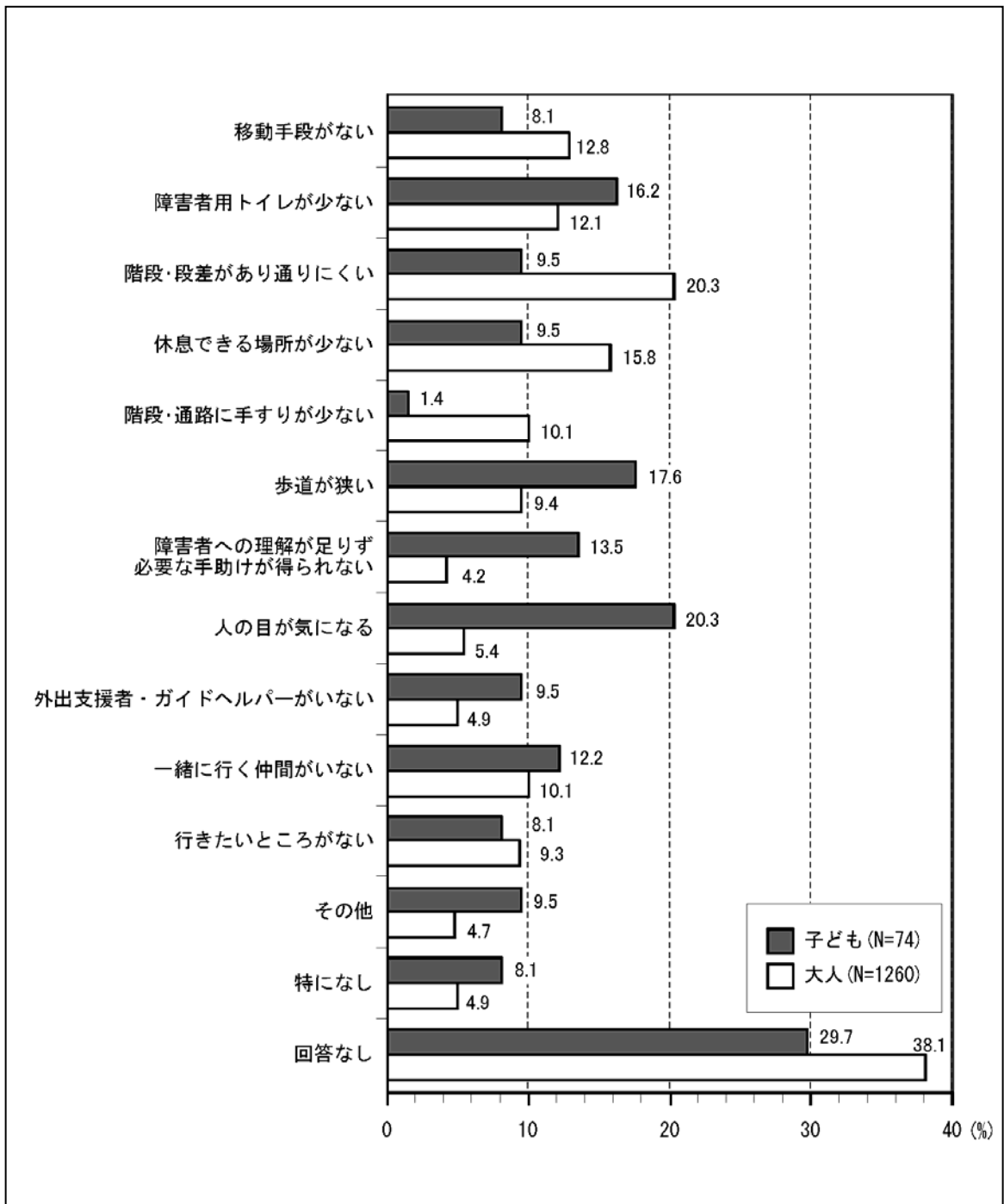
駅周辺の移動円滑化に関連する設問を抽出し、回答を以下に整理します。

○外出や余暇活動などを通じた多様な社会参画の機会の確保

- ・障害のある子どもは、通園・通学などを通じて毎日のように外出している人の割合が高くなっていますが、障害のある子どもに比べて、障害のある人の外出頻度は低くなっています。障害のある人の場合、20歳代以下や60歳以上の年齢層の外出頻度が低くなっています。
- ・外出するときの困ることとして、障害のある人においては「階段・段差があり通りにくい」や「休憩できる場所が無い」、「移動手段がない」が多く指摘されています。
- ・一方、障害のある子どもにおいては、「歩道が狭い」や「障害者用トイレが少ない」もさることながら、「人の目が気になる」や「障害のある人への理解が足りず、必要な手助けが得られない」といったソフト面の事項が困ることとして多く指摘されています。



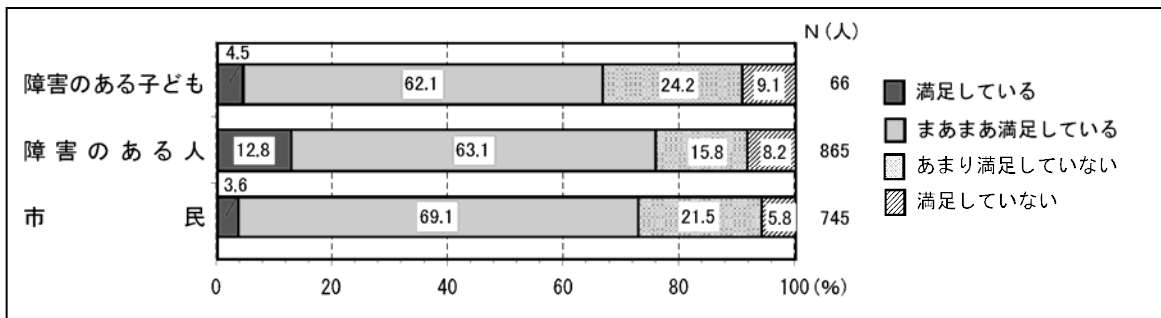
■外出頻度（障害のある人・障害のある子ども）



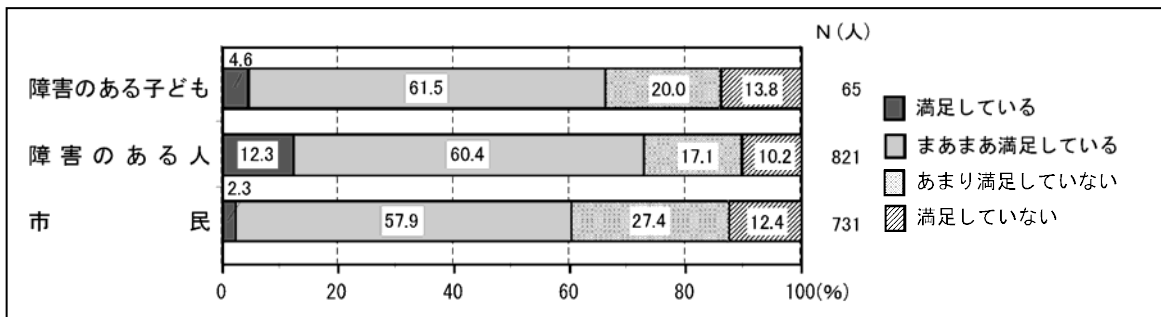
■外出時に困ること（障害のある人・障害のある子ども）

○ハード・ソフト両面のバリアフリー環境の充実

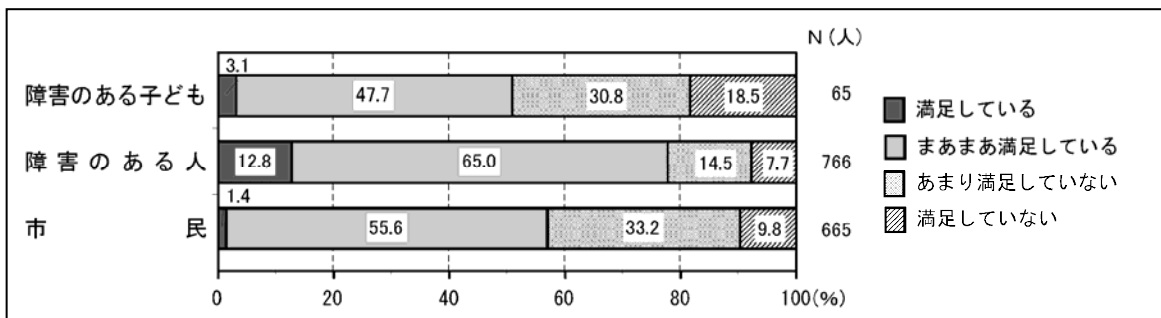
- ・市内の主な公共施設や日常生活圏でのバリアフリー整備については、どちらも障害の有無や大人と子どもを問わずに、概ねの満足度が得られています。
- ・一方で、2割強～4割の人が満足していない状況にあり、特に障害のある子どもについてはその傾向が高くなっています。
- ・心のバリアフリー環境に対する障害のある子どもの満足度については、満足しているという回答と、満足していないという回答が同程度の割合となっており、あまり満足度が高くない状況にあります。



■公共施設のバリアフリーの満足度 (障害のある方・障害のある子ども・市民)



■生活圏のバリアフリーの満足度 (障害のある方・障害のある子ども・市民)



■心のバリアフリーの満足度 (障害のある方・障害のある子ども・市民)

4-2 まち歩き点検の実施

(1) まち歩き点検の概要

重点整備地区予定範囲内の具体的なバリア等を把握するため、高齢者や障害のある人にご協力をいただき、駅舎内、駅前広場をはじめ、周辺的生活関連経路の点検を実施しました。

○日時：平成21年8月27日（木） 午前9時30分～正午

○作業工程：

- ①集合・概要説明（スポーツセンター1F会議室）
- ②まち歩き点検、車いす体験、ノンステップバス乗降体験
- ③点検マップの作成及び点検結果の発表（スポーツセンター1F会議室）

○点検内容：

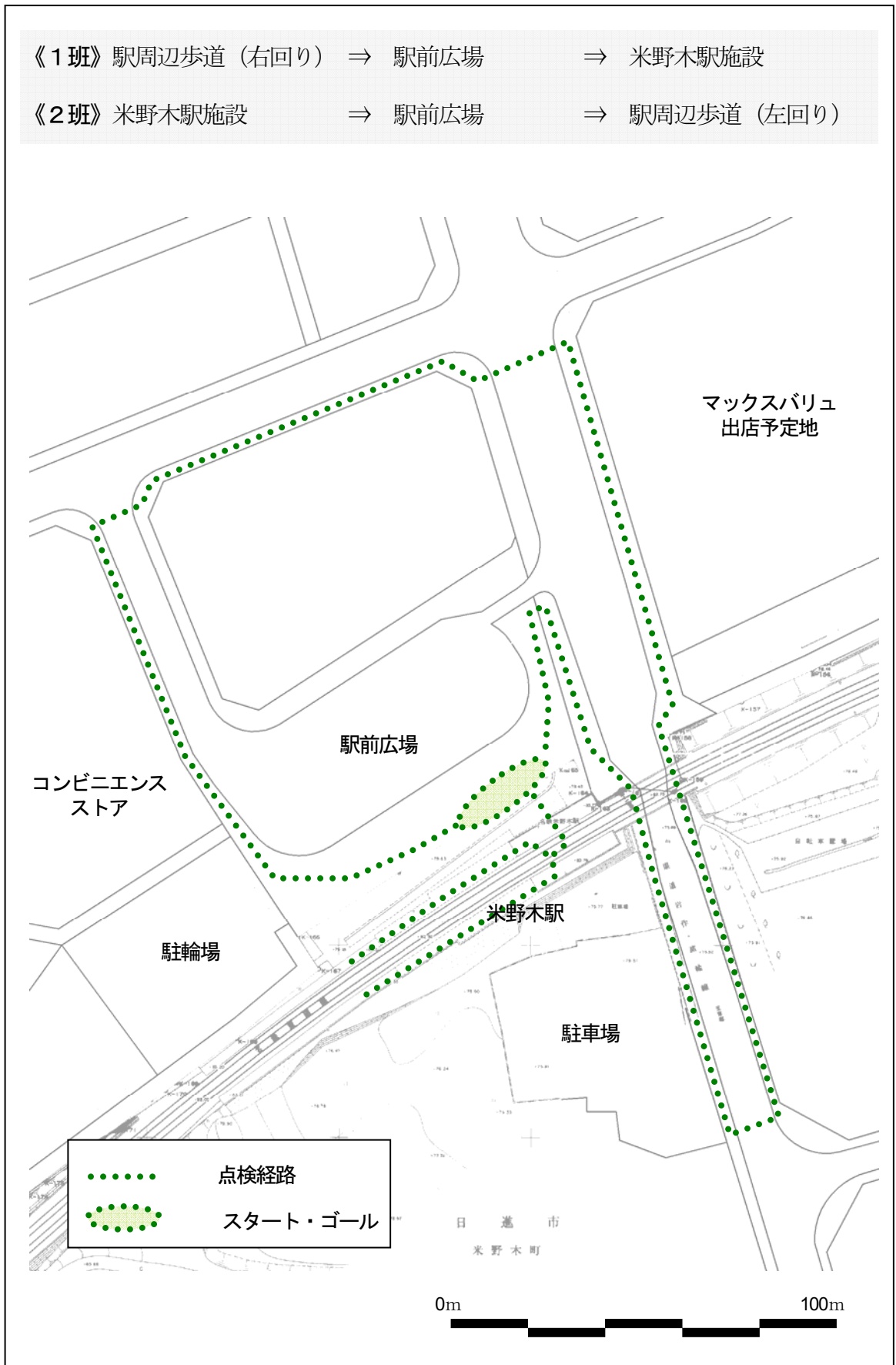
- ・歩道、駅前広場、駐車場の移動しやすさに対する問題点（幅員、勾配、段差等）
- ・鉄道駅の移動のしやすさに対する問題点（水平動線、垂直動線）
- ・鉄道駅の施設・設備に対する問題点（券売機、改札口、休憩施設、トイレ等）
- ・歩道、駅前広場、鉄道駅における案内誘導に対する問題点
- ・鉄道駅周辺における路上駐輪や看板の路上へのはみ出し等マナーに対する問題点
- ・その他施設を利用する上での問題点

○参加者：合計27名（2班に分けて実施）

参加者		1班	2班	計
協議会		8名	7名	15名
	身体障害者	1名	0名	1名
	視覚障害者	0名	1名	1名
身体障害者		1名	0名	1名
介護者		1名	0名	1名
事業者		1名	0名	1名
事務局	都市計画課	2名	3名	5名
	コンサルタント	2名	2名	4名
合計		15名	12名	27名

○点検ルート：

《1班》 駅周辺歩道（右回り） ⇒ 駅前広場 ⇒ 米野木駅施設
《2班》 米野木駅施設 ⇒ 駅前広場 ⇒ 駅周辺歩道（左回り）



○点検風景



集合時 (スポーツセンター)



集合時 (現地)



まち歩き点検 (1班)



まち歩き点検 (2班)



まち歩き点検 (1班)



まち歩き点検 (2班)



車いす体験



ノンステップバス乗降体験

○点検マップの作成

まち歩き後、班ごとに点検結果を地図に落とし込み、点検マップを作成しました。
その点検マップについて各班の代表が発表を行い、参加者全体で問題点を確認しました。

《1班》



《2班》



(2) まち歩き点検結果

まち歩き点検時に参加者から出された意見及び問題点を施設別（駅舎（コンコース、プラットフォーム）、駅前広場、駅周辺歩道等）にとりまとめた結果を以下に示します。

① 駅舎に関する意見及び問題点

○コンコース

- ・トイレの入口が狭く、段差もある。
- ・和式便器しかなく洋式もしくは多機能トイレの設置が必要である。乳幼児を連れて入れるものがない。
- ・視覚障害者（全盲）は、男女トイレの識別が出来ない。



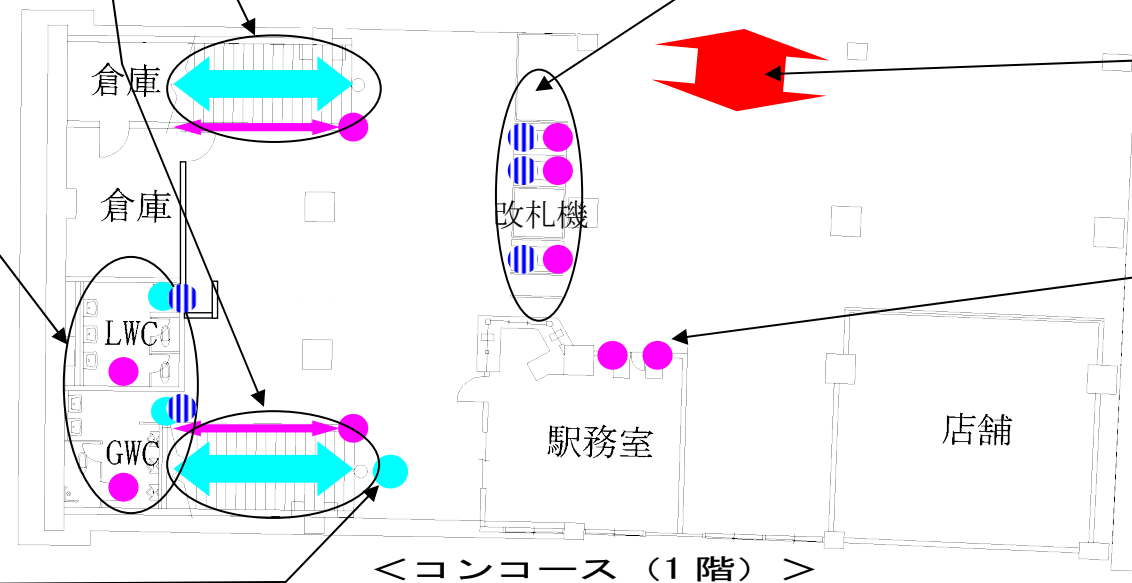
- ・地面が波うっており、転倒する危険がある。
- ・視覚障害者誘導用ブロックが外れかけている。



- ・車いすの人は、切符を買ってもプラットフォームに行けない。エレベーターかエスカレーターを設置して欲しい。
- ・階段の手すりの設置位置が高い。また、不連続のため使いづらい。
- ・階段の手すりに点字の表示が欲しい（プラットフォーム、行先、番線）。
- ・階段の上り口、降り口等に音声案内（誘導鈴等）があると良い。



- ・自動改札口の幅が狭く、車いすが通行できない。駅務室横の拡幅改札口は柵が施錠されていて通行不能である。
- ・改札口に音声案内（誘導鈴等）があるとよい。
- ・改札機には、乗車券投入口に段をつけて欲しい。



- ・傾斜が気になる。
- ・駅舎の入口への音声での誘導案内があるとよい。

- ・車いす、電動車いすでは券売機に手が届きにくい。また、隣に人が来ると動けない。
- ・券売機に音声誘導や障害者用ボタンが欲しい。



- ・照明の数が少ない
- ・異常を発見時や、障害のある人が手助け等を必要とする場合に備え、話のできる人（駐在所、ボランティア、駅員）を常駐させて欲しい。
- ・駅の監視カメラが少ない。

○プラットフォーム

- ・プラットフォームと車両の間に隙間と段差がある。
- ・階段部横の幅が狭い。
- ・柱が多数あり、移動の障害となっている。
- ・線路への転落防止のための設備（可動柵やホーム内方線）がなく、線路へ転落する危険がある。
- ・ベンチが1基(4人分)しかなく増やしたほうが良い。
- ・屋根を増設（延伸）してほしい。

プラットフォームの状況



凡例		改善事項
記号		
●	←→	舗装
●	←→	設備全般
		幅
●	←→	段差・凸凹
●	←→	勾配
●	←→	その他

②駅前広場に関する意見及び問題点

・駅前広場のバスバースに、車いす対応スロープが欲しい。

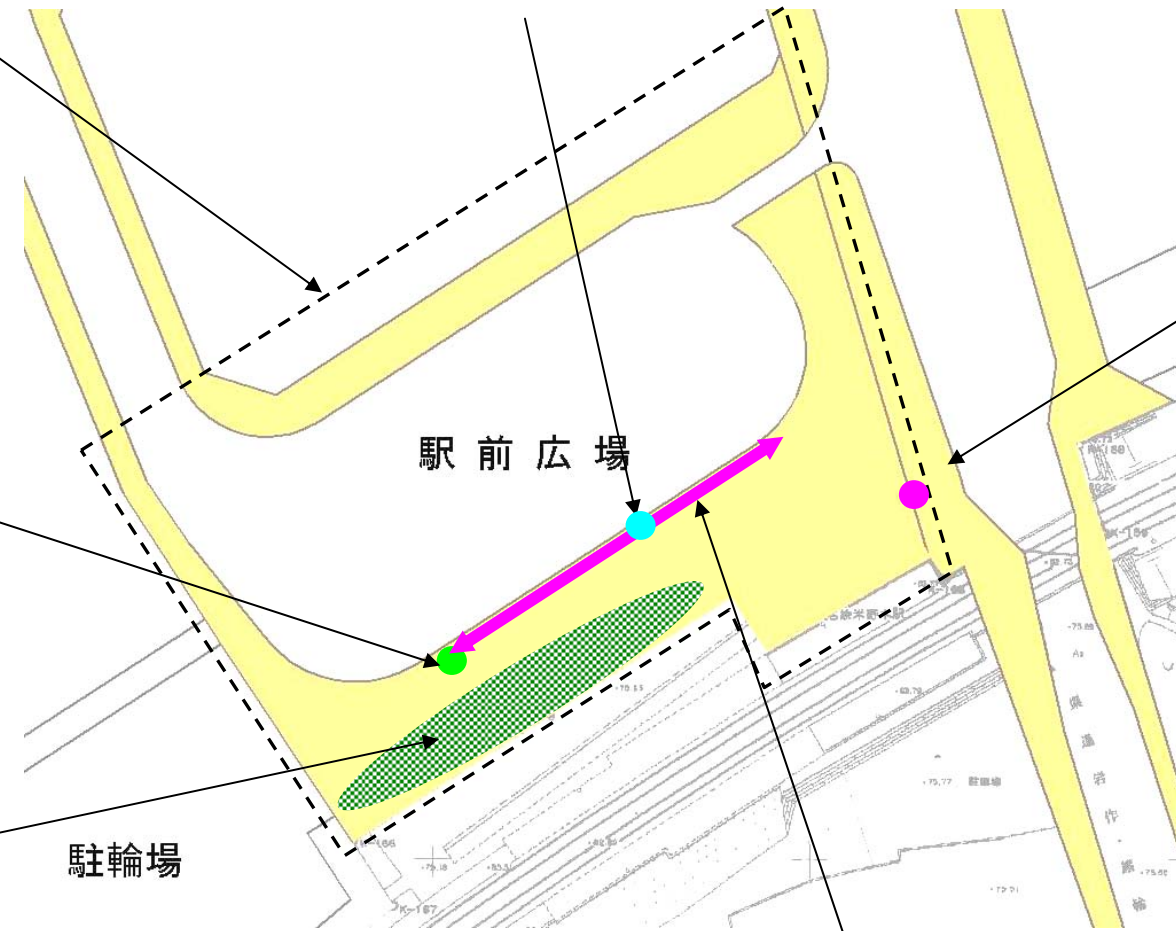


- ・ノンステップバスの運行はありがたい。
- ・駅前広場の照明が少ない。

- ・視覚障害者誘導用ブロックとインターロッキングブロック舗装の表面の質感が類似しているため、境界があいまいで分かりにくい。
- ・フットライトや発光式のブロックの設置があると分かりやすい。



- ・駅前広場内では、駐輪場に向かう自転車動線と、歩行車動線が交錯しているため、歩行者の安全性を確保して欲しい。



- ・階段に自転車用のスロープがあると便利。
- ・階段の視覚障害者誘導用ブロックは歩道まであるとわかりやすい。



- ・上屋に照明がほしい。
- ・バス乗り場にベンチが欲しい(上屋の中)。



凡例		
記号		改善事項
●	↔	舗装
●	↔	設備全般
		幅
●	↔	段差・凸凹
●	↔	勾配
■	↔	その他
■		歩道部
---		点検範囲

③ 駅周辺歩道等に関する意見及び問題点

・交差点部歩道勾配が急である。



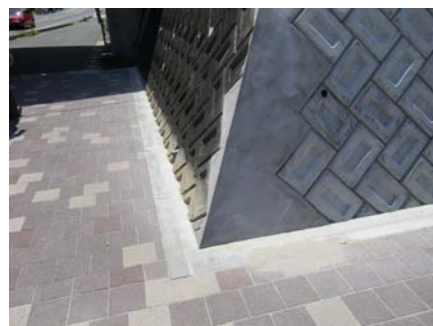
・横断部には音声対応の歩行者用信号、エスコートゾーンを設置する必要がある。
 ・横断するための青時間が短く、車いすが渡りきれない。
 ・横断歩道の夜間照明がない。

・ゆるやかな傾斜が続くため、途中で休憩スペースが欲しい。

・歩行者用信号、エスコートゾーンが欲しい。
 ・横断歩道の夜間照明がない。

・歩道幅員は2m以上あって車いすでも動きやすい。
 ・途切れることのない連続的な視覚障害者誘導用ブロックの整備が必要。

・ブロック積擁壁の角が危険。



・歩道の穴、グレーチングの溝は靴のヒールや車いすの前輪がはまらないようにして欲しい。
 ・側溝のふたが段差となっている。

・横断部には音声対応の歩行者用信号、エスコートゾーンの設置を標準とする。

・車を路上停車して乗降する人がいるのではないかな。

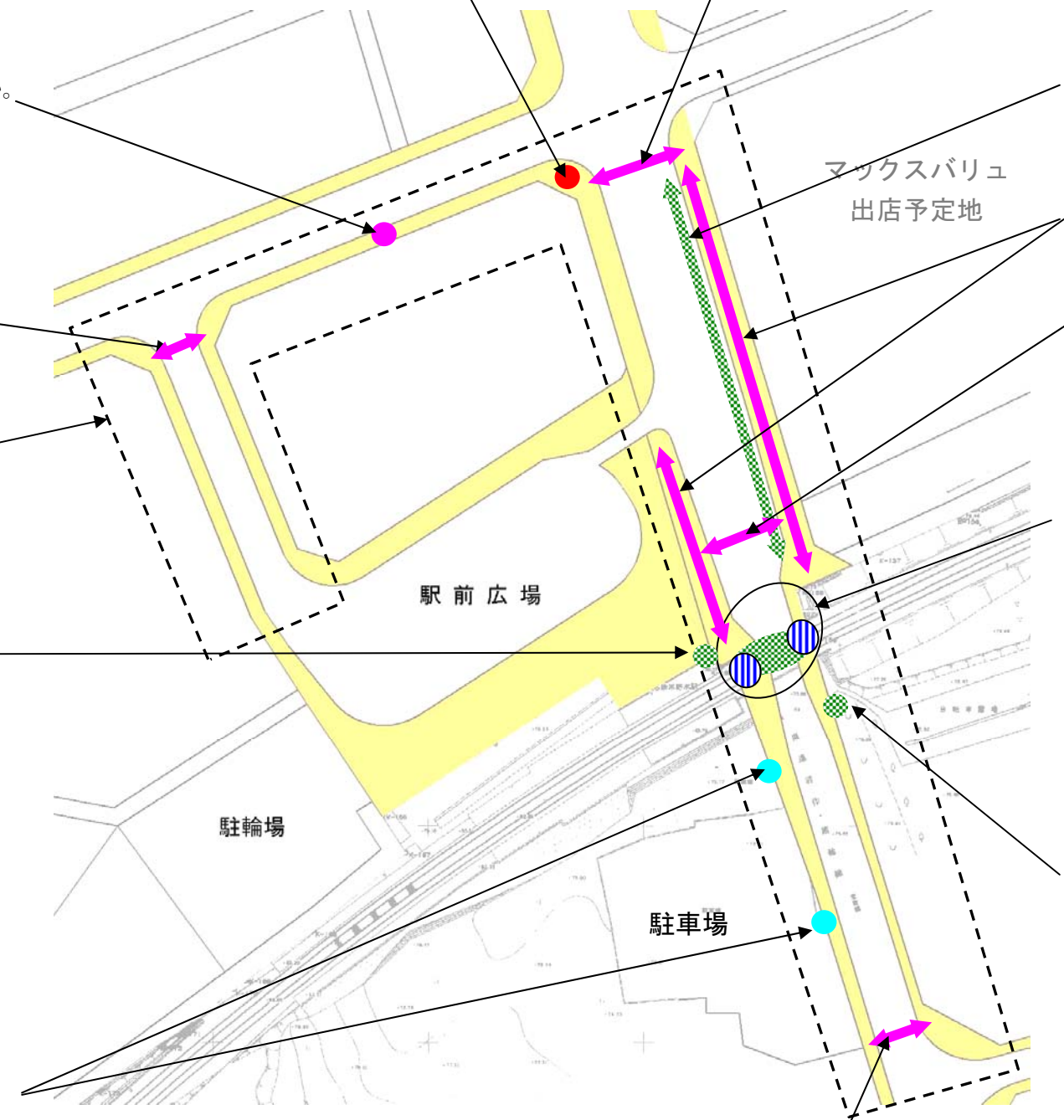
・幅の広い歩道には、視覚障害者誘導用ブロックが欲しい。

・駅とマックスバリュとの間のルートが、信号まで遠回りなため、歩道橋もしくは押しボタン信号機を設置すると良い。

・名鉄線の高架下の道路幅員が狭い。
 ・動線が直線ではなくクランク状になっている。
 ・ガード下が暗く、通行時に不安を感じる。



・歩道内に植栽がはみ出し、通行の妨げになっている。



凡例		改善事項
記号		
●	→	舗装
●	→	設備全般
■	■	幅
●	→	段差・凸凹
●	→	勾配
■	→	その他
■		歩道部
---		点検範囲

4-3 ヒアリング調査の実施

(1) ヒアリング調査の概要

バリアフリー新法に基づく取り組みにおいては、高齢者や身体障害者のみならず、その他の障害のある人の意見を幅広く反映させていくことが重要です。

そのため、今回、主にまち歩きに参加された身体障害者や視覚障害者以外の障害のある人を対象とし、普段の移動における移動上の問題・課題について整理するため、ヒアリング調査を実施しました。

○実施期間：2009年9月1日（火）～10月30日（金）

○調査対象：日進市身体障害者福祉協会
日進市障害者団体連絡会

○調査内容：

- ①外出する際に困っていること
- ②障害のある方の自立した生活を支えるために道路、鉄道駅、バス停などの施設における改善点
- ③障害のある方の自立した生活を支えるために、「市民」「交通事業者」「行政」が理解すべきこと、手助けすべきこと、その他対応すべきこと

○調査方法：

- ・日進市身体障害者福祉協会や、日進市障害者団体連絡会の協力を得て、対象者に調査票を直接配布・回収

(2) ヒアリング調査結果

ヒアリングに対する回答をとりまとめた結果を、以下に示します。

①外出する際に困っていること

- ・車いすの前輪が、壊れた側溝蓋の段差にはまり、危険なことがある。
- ・車いすでの移動の際、段差があって行きたい所に行けなかったことがあった。
- ・障害者用トイレが少なく、とても困っている。
- ・障害者用トイレがあっても、車いすの大きさにより使いづらい所もある。介助用スペースが確保された多目的トイレがあるといい。
- ・まだ全体に歩道が無かったり、狭かったりして困ることがあり、危険を感じる。
- ・自転車で通る人の歩行者等への配慮が足りない。(譲り合いや交通安全に対する意識が足りない。)
- ・歩道にバイクや自転車が置いてあり通れないことがある。
- ・障害者専用駐車場が少ない。一般の人が利用していることがある。
- ・地下鉄に乗ったときの場合、緊張して表情が硬くなることもある。
- ・人の目が気になる。

【参考資料：第2次日進市障害者基本計画においてとりまとめられた

「障害者が外出する際に困ること」の主な項目】

- ・人の目が気になる
- ・段差があり通りにくい
- ・歩道が狭い
- ・障害者用トイレがない
- ・休憩できる場所がない

②障害のある人の自立した生活を支えるために道路、鉄道駅、バス停などの施設における改善点

- ・歩道が狭く、ガタガタしている所が多く、歩きにくい。
- ・車道と歩道の境の段差がある所がたくさんあります。
- ・くるりんばすのバス停で歩道が無い所があり、待っているのに怖い。
- ・階段のある所にはスロープを作ってほしい。
- ・分かりやすい点字ブロックを設置してほしい(階段の昇降部等)。
- ・音声対応の歩行者用信号を設置してほしい。あつた方が安心して通れる。
- ・バス停にベンチがあると休息できて良い。屋根があるとさらに良い。
- ・駅(プラットホーム)には、障害者対応の休憩室があると良い。
- ・自転車の専用道路があるとよい。

③障害のある人の自立した生活を支えるために、「市民」「交通事業者」「行政」が理解すべきこと、手助けすべきこと、その他対応すべきこと

- ・「お手伝いできることありますか？」など気軽に声がけしてもらえるとうれしい。
- ・最近では、一般の方が手を貸して下さったり、道を空けて下さる様になり、ありがたい。
- ・「こんにちは」というあいさつがとても好き。怖がらずに「こんにちは」と言ってくれるととてもうれしい。まずそこからやってほしい。
- ・困っているように見えても、手助けを求めない時は静かに見守ってほしい（必要以上の気遣いは迷惑な場合もある）。
- ・バスの乗り降りの時、急がずゆっくり待って欲しい。
- ・障害のある人への理解や思いやりが必要。
- ・バリアフリーについて全ての人へ浸透させる方法を検討し、実践することが必要である（学校教育の中で障害に対する正しい知識の普及など）。
- ・行政の横断的な理解と取り組みが必要（関係の薄い部局への浸透が必要）。
- ・障害のある人と一般市民が交流する機会を創ることが必要。
- ・なかなか人に聞くことができないため、建物や道路が分かりやすく書いてある周辺地図がほしい。
- ・障害者割引がほしい。

4-4 移動円滑化に関わる問題点・課題

(1) 移動円滑化に関わる問題点

アンケート調査や、まち歩き点検、ヒアリング調査結果から抽出された問題点を、以下に整理します。

■ 駅舎に関する問題点

項 目		問題点
移動経路	水平移動	《コンコース（1階）》 <ul style="list-style-type: none"> ・自動改札口の幅が狭く、車いすが通行できない。 ・階段手前の地面が波うっており、転倒の危険がある。 ・駅前広場からの入り口の傾斜が気になる。
		《プラットフォーム（2階）》 <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォームと車両の間に隙間と段差がある。 ・階段部横の幅が狭い。 ・柱が多数あり、移動の障害となっている。 ・線路への転落防止の可動柵がなく危険。
	垂直移動	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすの人は、切符を買ってもプラットフォームに行けない。 ・高齢者には階段の段差が大きいので、足が上がりず上れない。 ・階段の手すりの設置位置が高い。また、不連続のため使いづらい。
誘導・案内	サイン・案内	<ul style="list-style-type: none"> ・ホーム内方線がなく、線路の位置が分からなくなる場合があり危険。 ・視覚障害者誘導用ブロックが外れかけている。 ・階段の手すりに点字がない。 ・駅舎入口や駅舎内に音声案内（誘導鈴等）がない。
施設・設備	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの入口が狭く、段差もある。 ・和式便器しかなく洋式もしくは多目的トイレがない。 ・視覚障害者（全盲）の人は、男女トイレの識別が出来ない。
	券売機	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす、電動車いす等の利用者は、手が届きにくい。 ・券売機の間隔が狭く、隣に人が来ると動けない。 ・蹴込みの奥行きが短い。 ・券売機付近に障害者用のボタンがない。
	休憩施設	<ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム上にベンチが少ない。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・駅舎内に照明の数が少ない。 ・改札機の乗車券投入口が分かりにくい。
その他（人的対応）		<ul style="list-style-type: none"> ・異常発見時や、障害のある人が手助け等を必要とする場合に、駅で相談等のできる人（駐在所、ボランティア、駅員）がいない。

■ 駅周辺の歩道等に関する問題点

項目		問題点
歩道	有効幅員	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄線の高架下の歩道幅員が狭く、歩行者動線が直線ではなくクラック状になっている。 ・ブロック積擁壁の角が危険である。 ・幅員が広いと、目標物が定めにくく、歩きにくい。
	路面	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の穴や側溝のふた、グレーチングの溝にはまる危険がある。
	勾配	<ul style="list-style-type: none"> ・交差点部の歩道勾配が急である。 ・緩やかな傾斜地が続く区間がある。
施設・設備等	交差点	<ul style="list-style-type: none"> ・横断歩道にエスコートゾーンがない。 ・歩道に停止ブロックがない ・歩行者用青時間が短い。 ・横断歩道に押しボタン信号、音声対応の信号機がない。 ・横断歩道の夜間照明がない。
	視覚障害者誘導用ブロック 案内標識等 その他施設	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道が広幅員で、かつ視覚障害者誘導用ブロックがなく、目標が定まりにくい。 ・連続的な視覚障害者誘導用ブロックが整備されていない。 ・駅からマックスバリュ（商業施設）への移動の利便性が低いとともに、県道を横断する必要があるため危険である。 ・ガード下が暗く、通行時に不安を感じる。

■ 駅前広場に関する問題点

項目		問題点
交通空間	乗降場	<ul style="list-style-type: none"> ・バス乗り場に休憩施設がない。
施設・設備等	サイン・案内	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者誘導用ブロックと舗装の境界が分かりにくい。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前広場の照明が少ない。

■ その他の人的対応に関する問題点

項目		問題点
その他 マナー等		<ul style="list-style-type: none"> ・自転車と歩行者の動線が錯綜し、危険である。 ・歩道内に植栽がはみ出しており、通行の妨げになっている。 ・障害のある人に対する理解が足りない。

(2) バリアフリーの実現に向けた課題

移動円滑化に関する問題点から、バリアフリーの実現に向けて、以下の課題が挙げられます。

① 駅舎に対する課題

- ・誰もが鉄道を円滑に利用できる移動経路を確保し、適切な誘導案内を実施する必要がある。
- ・プラットホームから線路への転落に対する安全性の確保が必要である。
- ・利用者の意見を踏まえた、利用しやすい施設（トイレ等）への見直しが必要である。
- ・高齢者や各種障害者の特性の理解を深めるとともに、助け合いに関する市民意識を啓発する必要がある。
- ・交通事業者やボランティア等による適切な人的対応が必要である。

② 駅周辺の歩道等に対する課題

- ・適切な案内誘導や平坦性の向上等により、連続性のある円滑な移動空間の確保が必要である。
- ・高齢者や各種障害者等に配慮した信号の運用が必要である。
- ・緩やかな坂道が続く地形特性に配慮した、身体的負担を軽減する施策が必要である。

③ 駅前広場に対する課題

- ・利用者の意見を踏まえた、利用しやすい施設・設備（バス乗降場、照明等）への見直しが必要である。

④ その他人的対応に対する課題

- ・高齢者や各種障害者の特性の理解を深めるとともに、マナー向上に向けた意識啓発を実施する必要がある。